

科目名	心理学史特講	担当者	辻 ケイイチロウ 辻 敬一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>心理学は、19世紀半ば、当時の生物学・生理学の進展に影響されて誕生したという点で 人文学系分野のなかだ独自の性格をもつ。前期は 現代心理学の成立の基盤となった科学・技術史を概観し、特に生物学・生理学の進展を把握する。また、今世紀の社会が抱える科学・技術上の諸課題について認識を深める。後期には、心理学の誕生と発展過程をたどり、心理学の現状と課題を考察する一助とする。このように、本授業は、心理学諸領域についての「俯瞰図」を描くことができるような知見を提供することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>心理学専攻者にとって、学史の理解は基礎的素養のひとつである。上掲のように、科学・技術の発展過程を正しく理解し、それを踏まえて心理学固有の史的展開を位置づけることができるように配慮する。学問体系と個別科学の性格を把握できるようになれば、本授業履修の目標を達成したことになる。</p>		
学修方法	<p>教材をまず通読してその内容を理解したのち、レポート課題の題意に添って、要点となる個所について参考文献を検索し、レポートをまとめる。この作業を通じて、一般的な文献読解の力量を養うことも本授業の目標のひとつであるから、そのことにも意を用いることを期待する。</p> <p>ちなみに「読解」とは、文献の要約と論評の双方を正確に行うことをいう。いうまでもなく、要約は著者の立場から内容を紹介すること、論評は読者の立場から内容を評価することであり、それらを適切に行うことが肝要であることを心得ておいていただきたい。</p>		
スケジュール	<p>学修にあたっては、まず履修を届け出て1か月以内に学修プランを提出し、それについて担当者と打ち合わせを行う。そのうえで、最終稿の提出に十分な時間的余裕をもって草稿を提出し、すくなくとも2回の改稿が可能な時間的余裕をもって初回の草稿を提出する。このような作業時間の配分を考えることも履修の要件である。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	課題の題意を的確に把握し、それに添った内容になっていること、あらかじめ提出された草稿に対する担当者のコメントを承けた改稿がなされていることなどを踏まえて評価を行う。
	平常評価	40%	レポート作成までの作業が適切に行われていること、その間の担当者との連絡が密であることが評価の基準となる。
履修者への要望	<p>大学院における学修に際しては、専攻分野における自身の課題研究を進めるうえで幅広い学識を得ることが必要とされる。本授業では、前期に科学・技術の展開や動向を理解し、そこで提起される課題について認識を深めることができるように配慮する。後期には、その成果を活かし、人文学における心理学の固有性や、現代心理学の形成過程における諸事情を把握するよう期待する。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 村上陽一郎 教材名： 『科学の現在を問う』（講談社現代新書，2000年）ISBN:978-4-06-149500-5 740円+税</p> <p>本書において著者は、科学・技術の発展をたどり、それが人類に及ぼした影響を問い直している。その内容は、①科学研究の変質、②技術と安全、③医療と現代科学技術、④情報と科学・技術、⑤科学・技術と倫理、⑥科学・技術と教育、の6章構成である。</p> <p>心理学史を学ぶに先立って、本書を通じてこの種の広範な問題意識を確かなものにしておくことが肝要だと考えられる。</p>
参考図書	<p>読売新聞社(編) 『20世紀：どんな時代だったのかー思想・科学編』（読売新聞社，1999年）ISBN:978-4-64-399039-3 1,800円+税</p> <p>中山茂 『科学技術の戦後史』（岩波書店，1995年）ISBN:978-4-00-430395-4 620円+税</p> <p>中村雄二郎 『臨床の知とは何か』（岩波書店，1992年）ISBN:978-4-00-430203-2 760円+税</p> <p>科学技術の智プロジェクト(編) 『21世紀の科学技術リテラシー像ー豊かに生きるための智ー人間科学・社会科学（専門部会報告書）』2008年</p> <p>http://www.jst.go.jp/csc/science4All/minutes/index5.html でDL可</p>
履修上のポイント	<p>(1) 文献読解にはその内容を正確に理解すること、その内容についての確な評価を下すこと、つまり要約と論評の二つの課題を達成するよう努める。</p> <p>(2) レポート課題に関連する個所に限ることなく、教材の全編を読み通すことにより問題を俯瞰的にとらえることができる。</p> <p>(3) レポート作成にあたっては、あらかじめ内容構成を考えること、原稿の推敲を行う。</p>
レポート課題 1	<p>科学・技術の発展過程を概括し、併せて現代社会における科学・技術の役割について考察せよ。</p> <p>留意点：教材を読解して、まず科学と技術の定義・異同を把握したのち、題意に添いレポートを作成する。</p>
レポート課題 2	<p>次に掲げる用語について、内容をまとめ、論評を加えよ。</p> <p>①学際的研究とビッグ・サイエンス、②情報化社会、③高齢化社会と生殖医療技術</p> <p>留意点：教材に限らず、各種の文献を検索して得られる知識を自身で整理したのち、レポートにまとめる。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 梅本堯夫・大山正（編著） 教材名： 『心理学史への招待ー現代心理学の背景ー』（サイエンス社，1994年）ISBN:978-4-78-190720-8 2,800円+税</p> <p>本書は、現代心理学が形成されるに至る経緯を明らかにするために、その基盤となった学史を概観したものであり、心理学諸領域に対応づけるかたちでまとめられている。ともすれば先端的な研究のみに眼を奪われて、その成果が得られた過程の理解が等閑にされがちである。</p> <p>履修者が自身の課題研究を進める上で、専攻分野の学史の理解は欠かせない。</p>
参考図書	<p>大山正 他 『心理学のあゆみ』（新版）（有斐閣，2004年）ISBN:978-4-64-109118-4 1,100円+税</p> <p>サトウタツヤ・高砂美樹 『流れを読む心理学史』（有斐閣，2003年）ISBN:978-4-64-112195-9 1,700円+税</p> <p>西川泰夫・高砂美樹 『心理学史』（改訂版）（日本放送出版協会，2010年）ISBN:978-4-59-531185-7 2,600円+税</p>
履修上のポイント	<p>(1) 心理学に固有の性格とはなにかを把握することに努める。</p> <p>(2) 心理学分野において20世紀を通じて生じた変化を明らかにする。</p> <p>(3) 心理学の成果が社会にどのようなかたちで還元されてきたかについて考える。</p> <p>(4) 主要な学者の原著(翻訳で可)に接する。</p>
レポート課題 1	<p>心理学が独立した科学分野として誕生するに至った背景には、当時のどのような学問的状况があったと考えられるか。心理学の誕生を促した隣接分野の動向について述べよ。</p> <p>留意点：基本教材および参考図書に、現代心理学諸領域に対応づけて研究展開が示されているので、その内容をまとめて自身で当時の状況を思い描くことが望ましい。</p>
レポート課題 2	<p>次の事項についてまとめよ。</p> <p>① 行動主義心理学に対するパヴロフ (Pavlov, I. P.) の研究の影響</p> <p>② 比較心理学の誕生を促したダーウィン (Darwin, C.) の生物進化論</p> <p>③ 臨床心理学に及ぼした人格研究や精神分析の影響</p> <p>留意点：各種の文献を検索し、題意に添って自身の論考を展開することを期待する。</p>